

【腕試し問題】 解答例

① よひことに みやこにいつる あふらり

② ふけてのミみる やまさきの月

③ 見わたせは 秋の田のものいなもちゐ

④ おほきに いつる山のはのつき

⑤ 左歌 くれことにとこそいふへけれ 夜やハ

⑥ あふ らうるへき 右歌ハあきの田のもの

⑦ いな もちぢまことにさる事ときこゆ 仍

⑧ もちゐ につくへきにや

腕試し問題にある変体仮名のうち、本講座には出てこなかった字について説明します。

①下から7字目「つゞ」は「徒」をもとにしています。また下2・3字目「らう」は、同じような形の字が横並びになっており、判読が少し難しかったかもしれません。

②1字目「ふ」は「婦」が、7字目「る」は「累」が、8字目「や」は「屋」が、それぞれもたになっています。

③4字目「せ」は「勢」をもとにした字です。

④4字目「に」は「耳」をもとにした字です。

⑥3字目「ら」は「羅」をもとにした字です。

⑦6字目「ま」は「満」をもとにした字です。

⑧6字目「く」は「具」をもとにした字です。

※なお、⑤9字目「こ」は、「う」のように見えてしまう形ですが、文意から「こ」とするのが適切です。

腕試し問題全体を、現代の漢字・仮名遣いで示すと以下のとおりです。

宵ごとに都^{いづ}に出る油売り 更けてのみ見る山崎^{いづ}の月

見渡せば秋^{たのも}の田面の稲餅^{いなもち} 大^{いづ}きに出る山の端の月

左歌、「暮ごとに」とこそ言うべけれ。夜やは油売るべき。右歌は「秋の田面の稲餅」まことにさる事と聞こゆ。よつて「もちい(餅)」に「つく(付・搗)」べきにや。

※【講座資料訂正】13ページ6行目「果」を「閑」に訂正させていただきます（HP掲載のPDFは訂正済みです）。